

良く晴れた日。キレイなお花をバックにパチリ。



理事長 苺部 一夫

感謝

温かいお気持ちに

光陰矢の如し。年々一年が早くなる気がします。コロナは収まらずですが、職員の緊張感ある感染対策と、ご家族の皆様をはじめ関係各位のご協力のおかげでなんとかここまで無事運営することができました。厚く御礼申し上げます。

例えば三月から四月にかけては、緊急事態宣言もあって、特に通所施設（こぶしの生活介護、たんぼぼ、清瀬事業所）への通所自粛のため、収入が大きく落ち込み、法人全体で数百万円規模で減収となりました。そのため、職員には四月の昇給停止と六月の賞与、勤勉手当を減額支給することになり、皆も身を切る覚悟で協力してくれました。

五月ごろからは、学校閉鎖期間に、お子さんの世話をするために出勤できなかった職員への休業補償や収入減少を補助する持続化給付金などの救済制度も始まり大変助かりました。

それでも感染対策にかかる費用は多額になっていきます。二十四時間密接な距離で利用者様と関わることになる「こぶし」では、感染者が発生したときの緊急対応を示した「事業継続計画」を見直し、部屋や廊下を物理的に仕切る「応急区分壁」なども新設しました。「たんぼぼ」では、ご利用者一人一人の作業スペースをビニールカーテンで仕切り、一日の受け入れ人数を減らして、密を避けるようにしています。そのため、全員が毎日通所できない事態もあり、ご利用者はもちろん、ご家族の方々にも大変ご迷惑とご

協力をお願いしております。さらに、就労支援Bをご利用の方には、受注の仕事量も大きく減少した結果、工賃収入がほぼゼロになったものもあり、これを補完するため、職員が様々なアイディアでなんとか補償できるように頑張っています。

その後六月以降に、テレワークを推進する補助金や福祉施設職員への慰労金、さらに練馬区や東久留米市の慰労金制度も新設され、事務職員を除く職員へ直接支給されました。

こうした補助金や助成金をいただけると、十分とは言えないまでも、有難いことだと感謝しています。それには、当然申請業務が必要で、支給要件を満たすことが証明できる文書を短期間に設定された期日までに作成しなければなりません。直接対人サービスに従事している職員のみならず全職員が協力して、現在もコロナに向かっていくことを報告いたします。

その結果、上半期の財務状況は夏以降徐々に好転し、年度末には黒字になると予想しています。この間、こぶし保護者会や法人役員の方々からも応援のお気持ちを頂戴しましたし、多くの方々から励ましのお言葉をいただきました。心より御礼申し上げます。

まだまだ、イベントの中止や密を避けた運営をしなければならず、ご不便をおかけいたしますが、どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

<小林 成奈>

最近、笑顔を沢山振りまいて下さる方がいます。笑顔だけでなく「ヒシヒシヒシ」という笑い声も響かせています。私は先日初めてヒシヒシとした笑い声を聞きました。最近ではよく聞かれるためとても嬉しいです😊

ペコちゃんTシャツで支援をしていた際、Aさんが来て「ペコちゃんペコちゃん」と言い興味を示してくださいました！！さらに！頭の方に手を置き、いいいいこしてくれているように思いました。ホッコリした瞬間でした😊

キラリ☆と光るこの一枚



カルフェスのゲームで釣り上げたお菓子をいただきました！（丸山）



清瀬市役所での販売！お菓子の新メニューも考えてくださっています！（壘）

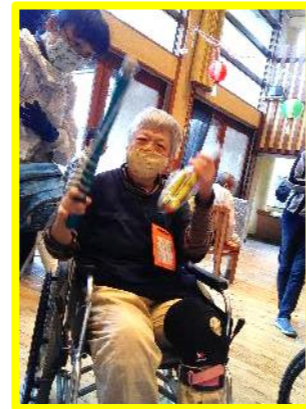
支えてくれた物に感謝

私は、施設的环境整備を担当する施設環境課を任されています。今年でこぶしは20周年になります。20周年は、おめでたいことなのですが、施設設備は20年も経つと様々な所にガタが来てしまうのです。

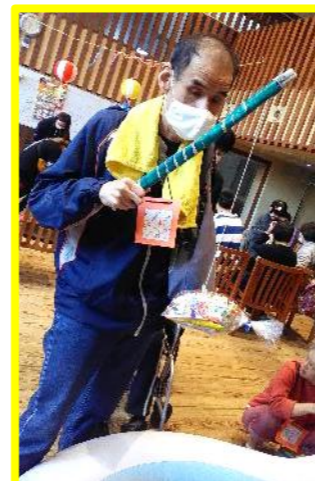
先日、便器の交換を業者に依頼しました。見積りに来た業者に便座の交換を勧められました。営業トークかなと思いつつも、現在使用している便座を調べると20年以上前に製造された商品でした。おそらく、こぶしの開所以来ずっと使用されていたのだと思います。便座も劣化すると熱くなりすぎたり、漏電したりする危険がある事がわかったので交換を依頼しました。

他にもこぶしの中には、長い間使用している設備がたくさんあります。今後は、今までこぶしの生活を支えてくれたことに感謝をしつつ、設備の耐久年数を調べながら、事故や破損が起きる前に新しい物に交換していこうと思っています。

こぶしカルチャーフェスティバル



今年新型コロナウイルスのため、残念ながらこぶし祭りが中止となりました。そこで、「こぶしカルチャーフェスティバル」(略してカルフェス)と題して、館内行事を行うことに！職員が工夫を凝らした企画に加えて、毎年こぶし祭りに出演いただいているチャターズ様にお越しいただき、素敵なパフォーマンスを披露していただきました。ありがとうございました。



今年を振り返ると一番印象に残っているエピソードがあります。それは15年間一緒に日々を過ごしてきた利用者Aさんが亡くなられたことです。Aさんには新人の頃からたくさん鍛えて頂き、勉強もさせて頂きました。

その方は社会的に不適切だと言われるような行動でご自身が抱えている強い不安を解消しようとされ、それでも解消できないときは寝る間も惜しんで(?)何時間もトイレに籠ることをしていました。新人の頃は「どうしたらトイレから出てくるだろう」と目に見えている行動ばかりに注目して、一緒に困った顔をして過ごしていた記憶があります。

色々と学んでいく中、社会的に不適切だと言われる行動の背景にあるものが「不安」だと分かり、支援の目的が「トイレから出る」から「不安の解消」へと変わりました。すると、いつも眉尻を下げて困った顔ばかりしていたAさんが笑顔をたくさん見せてくれるようになり、この瞬間がたまらなく嬉しく思わず支援者も一緒に笑い、喜びます。

時が過ぎ、今年に入ってから寝たきりになったAさんは笑うことも会話することも無く、眉尻が下がった顔で支援者を見つめ、言葉にならない言葉で叫び続ける日々を送っていました。ある時、車いすに乗って事務室まで来てくれたことがありました。支援者たちは笑って欲しいという思いで代わる代わるAさんに話しかけます。それを感じ取ってくれたのか力を振り絞ってAさんが笑顔を見せてくれました。その瞬間一気に歓声があがり拍手喝采、みんなで喜び合ったことがありました。

過去のことを振り返りながらこの場面を見て思ったことは、人は目の前や近くにいる人の感情に共振するのだということでした。つまり愚痴っぽい人のそばにいれば自分も愚痴っぽくなっていきますし、笑っている人と一緒にいれば自分も明るい気分になるということです。

Aさんは支援者の何気ない表情や声色、動作などを読み取り、支援者に合わせて「笑顔」や「困った顔」を見せていたのかもしれませんが。そう考えると、自分の感情に目を向けてみることはとても大切なことなのだと思います。Aさんから学んだことを機に自分の感情に目を向けることを習慣化していきたいと思えます。

サービス管理責任者 坂口 麻衣子



身も心も元気に過ごそう！

私は、今年6月に約1年半の産休・育児休暇から復帰させていただきました。

復帰に伴い今年度から新しく“朝の活動”として、高齢利用者の方々を対象に『ウォーキング&ストレッチ』を実施しています。こぶしの外や館内の散歩や滑り台練習、血流促進・リラックスを目的としたマッサージやストレッチを利用者さんひとり一人に合わせて行っています。高齢化対策として身体を動かす機会を提供していますが、それよりも利用者の方々にとって「楽しい!」「気持ちがいい!」「もっとやりたい!」と思ってもらうことを第一に考えています。

私にとって朝の活動は、利用者さんと過ごす貴重でかけがえのない時間となっています。利用者さんにとっても、そうであってほしいと願っています。いつまでも元気に明るくこぶしでの生活を楽しんでいたきたい思いを込めて、これからもより良い活動となるように、私自身も楽しんで取り組んでいきたいと思えます。

生活支援員 吉井 友美